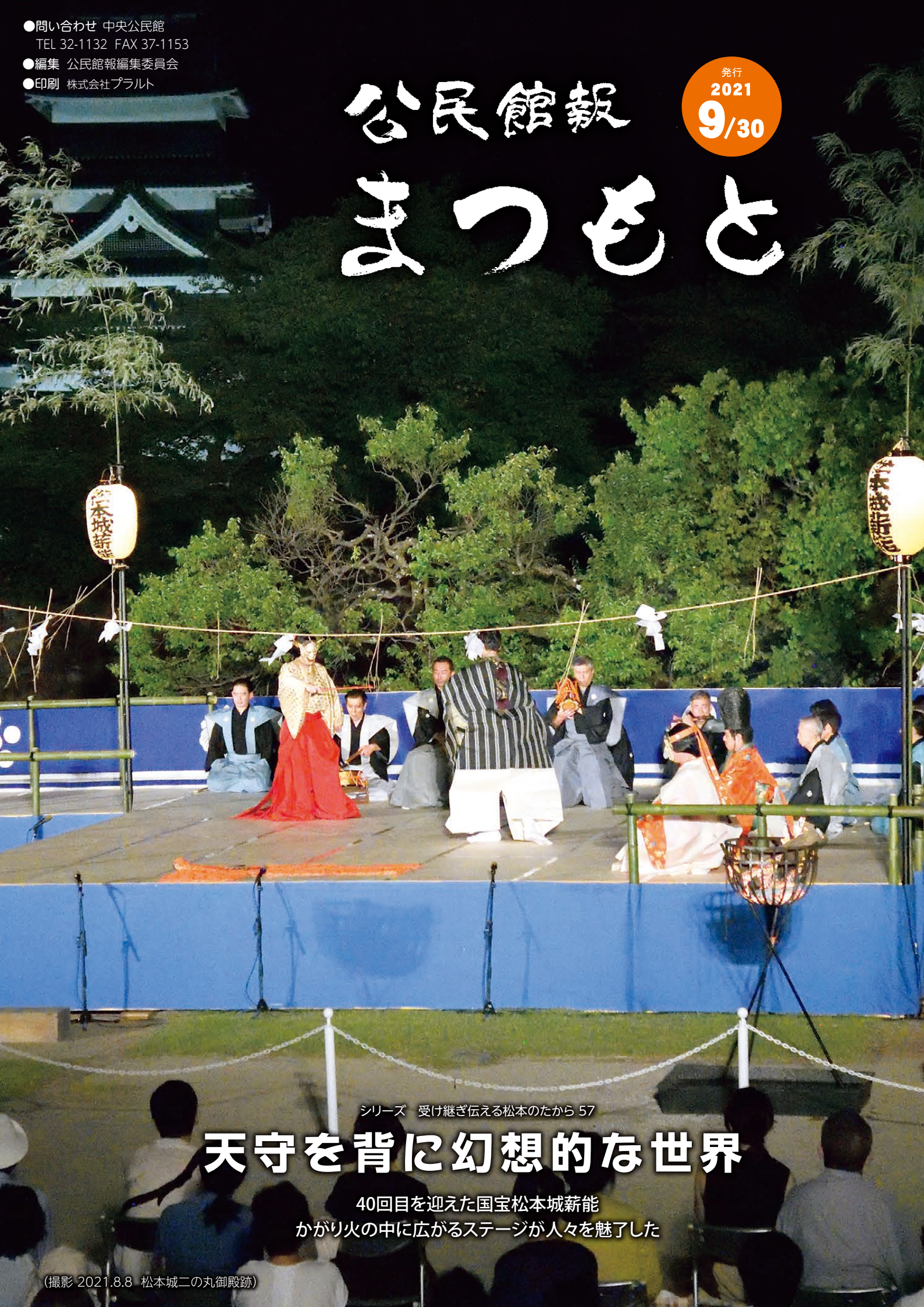


●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プラルト

発行
2021
9/30

公民館報 まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 57

天守を背に幻想的な世界

40回目を迎えた国宝松本城薪能
かがり火の中に広がるステージが人々を魅了した

(撮影 2021.8.8 松本城二の丸御殿跡)



オリンピックのオーラ輝いて

なぜ里山辺に?

目の前に美鈴湖や渋池に至るコースがあります。そして駅前まで自転車ですぐ。とても良い環境です。

松本市にはシドニーオリンピックマウンテンバイク日本代表の鈴木雷太さんに師事するために来ました。山に囲まれて標高差もあり、また市街地は平たんで、マウンテンバイクに乗る環境がそろっています。そのため日本トップクラスの選手が集まり、オリンピックの時には選手ほとんど

**マウンテンバイクがひろく
松本の新たな可能性!!**

東京オリンピックの、マウンテンバイク競技に出場した山本幸平さんは北海道出身です。現在、里山辺に住んでいます。松本市に移住した理由を聞くうちに思いがけないこの街の魅力を知ることができました。

が松本市から出場しています。

日本で一番、なのに?

松本の山はスイスやドイツに似ていて、世界に通用する最高の環境です。しかし、マウンテンバイク文化が浸透していないので、山を汚す・傷めると誤解され、走れる環境づくりが減っています。オリンピック競技にもかかわらず、全国的に公に乗る施設が少ないのです。

大切なのはルール

登山道で自転車と登山者が出会うとびっくりするのは、お互いに同じ道にいるという認識がないからです。

海外では山の入り口に、登山・自転車・乗馬の表示があり、共存・すみ分けがしっかりとできています。

しかし日本では表示があまりないため、山を楽しむ環境づくりが遅れています。松本にルールやマップのしっかりした公式のコースが一本でも

できれば、全国的にも良い見本になります。

街と自然がつながる

自転車乗りは食べて飲むのも好きだと思います。自転車で体を動かして、そのままの



東京2020のユニフォームを手に

格好でカフェなどに寄って宿に帰る、というのがわりと基本です。松本は街並みもきれいで温泉宿も多く、自転車で楽しむ人たちが集まります。

例えばアルプス公園周辺のような、気分が舞い上がるすばらしい景観と、街にも近く駐車場など設備の充実したところなら、全国へ発信ができると思います。さらにコースが増えれば海外からも訪れる人が増え、最高の観光資源となるでしょう。

いるいるな人と話したい

山本さんはこのオリンピック

クを区切りに現役を退きました。今後は、松本を拠点に世界に通用するチームをつくり、子どもたちのためのレースなどを通じて、裾野を広げていくそうです。

「里山辺の話のつもりがこんなに話してしまうとは思いませんでした。実現するべきことがたくさんあります。そのためにもたくさんの人と意見交換がしたいです」

世界を見てきた山本さんの熱く語るこの言葉に、私たちが知らなかった松本の新しい可能性を教えてもらいます。

**山本選手が師と仰ぐ
元日本代表鈴木雷太さんに話を聞きました**

五輪での山本選手は、目標の入賞は逃したもののよく頑張った。ヨーロッパの選手との差は、やはり環境の違い。日本にも練習用のコースをぜひ造りたい。

自転車乗りにとって、松本のポテンシャルは群を抜いている。晴天率が高く、雪もそれほど降らない。また、日本の中心に位置し、多くの人々が試走に訪れている。地形的にもヨーロッパに引けを取らない。

自転車はトレイルでは、邪魔者扱いされることも時々あるが、山はみんなのものと考えている。仲間とトレイルライドで入った山で、倒木をどかしたりゴミを片付けたり、道の整備をすることが昔からよくある。ハイカーが歩きやすくなるし、なにより山がきれいになるのは誰もがうれしい。海外では抜群の機動力を生かし、森林レンジャーがマウンテンバイクでパトロールをしている。

固定観念を変えていくのには時間がかかるのはしかたないが、環境問題や、健康増進の観点からも車から自転車への転換は必要。移住者の増加なども見越した経済的発展も望める「松本発の自転車文化」を創っていきたい。



視点

②活動の中心自らを成長させる
信州大学
雷鳥サークル

信州大学に今年発足したばかりの「雷鳥サークル」。長野県全域で活動するため県鳥である雷鳥をサークル名に入れました。一年生18人が所属しています。

「地域×信大×ESD」を掲げ、SDGs(持続可能な開発)を学び、自身の成長の糧にしたい学生が、ESD(持続可能な開発のための教育)を実践しています。ESDとは、現代社会の問題を主体的に捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会の担い手を育

成する教育活動です。

「地域を変えることができなければ、世界を変えることはできない」とサークル長の海沼さんは、地域と主体的に関わる重要性を語りました。

これまでの活動は、池田町で開かれたテイクアウトマルシェでのボランティア、諏訪市



雷鳥サークルの代表者
(左から、黒滝さん、村田さん、海沼さん)

の企業訪問で、地域の魅力や課題を学ぶなど多岐に渡りま

松本の未来を担う人材を

黒滝さんは「これまでは、実際にその場を訪れて住民と話し合い、魅力を知ろうとしてこなかった。でも今後は自分から関わっていかうと思う」村田さんは「今は、会議で積極的に発言し、主体的に活動している。少しずつ成長してきた」と話しました。この活動は地域の人々と関わる中で経験を積み、自らを成長させるESDを実践するものだといえます。

地方には若者が行動を起こ

す場や、活動を支援する団体の数が少ないと訴えます。活動をサポートする仕組みや、一人一人の可能性を引き出すことが必要です。未来を担う人材を育成し、松本を、若者が活躍する先進地に変えてみませんか。



池田町のイベントにて
弁当配布のボランティアに参加

写真でつづる
まつもとの今昔⑤6

～ 大名町の松本ビル ～



(撮影：1978.7)

松本ビルの1階にはテナントの商店が営業している。歩道を闊歩する女子高生の制服は、松商学園か松南高校であろう。



(撮影：2020.8.22)

手前のビルは取り壊されて、大手門枳形跡広場になり、イベントが開催される。道路の向こう側の1階は、ウィンドーギャラリーに変わりATMが設置され、市民に利用されている。

おこひる

1964年の東京大会は好景気に沸き、日本中が熱狂した事は周知のごとくだ▼さて今大会は一年延期、組織委員会の諸問題

など数々の困難の中、大坂なおみ選手の聖火点火で開幕。開幕早々日本のお家芸である柔道のメダルラッシュ。団体種目のソフトボールが「金」と幸先よく、終わって見たら「金」27個「銀」14個「銅」17個を胸にし、世界で3番目の金メダル獲得となった▼今大会は新種目が多くある中でスケートボードは十代前半の選手もいて3種目3人が「金」を獲得する特筆すべき記録だった。またフェンシング団体優勝も顕著な出来事だった▼半面メダル獲得が確実視されていたバドミントンや競泳、レスリングなどは「オリンピックには魔物が棲んでいる」といわれていることや、世界的に蔓延した新型コロナ感染症のため万全のコンディションを整えるのが困難だったと考えられる▼終わってみればい

わく付きのオリンピックだった。だがスポーツの祭典らしく多くの感動とエネルギーを日本中に与えた事は間違いない。

歴史探訪 探ろう松本 24

縄文時代から六千年の歴史と文化を伝える 神林地区

地区の概要

神林地区は鎖川の扇状地で南部には信州まつもと空港があり、松本平広域公園や松本山雅FCのホーム・サンプロアルウィンをはじめ周辺の多くの体育施設は一大スポーツエリアとなっています。

明治7年に誕生した神林村は昭和29年に松本市と合併し、令和3年7月1日現在、1970世帯、人口4790人7町会からなる、ほぼ市街化調整区域の農村地帯です。

紀元前4千年からの遺跡

昭和58年の発掘調査による下神遺跡は奈良〜平安時代の



川西開田遺跡発掘調査

鎌倉時代中期の法燈国師は現福應寺の地生まれ。1249年に42歳で宋に渡り、修行中に味噌・醤油の醸造法を習得し、日本に伝えた高僧です。近年では、文化功労者となった書家の上條信山は、文部省の教育課程審議委員となり、昭和46年に小学校国語科の書写教育必修化実現に貢献。公民館前には「望郷」の書



大規模集落遺跡であり、多数の緑釉陶器や漆紙文書などの

平成10年度の川西開田遺跡調査では、紀元前4千年の縄文時代中期の集落が確認され、奈良・平安時代の大集落跡と緑釉陶器や皇朝十二銭など、貴重な資料も数多く発見されました。

受け継がれる人と思い

昭和53年に郷土史編纂作業中に楽譜が発見されると「地区歌」として見直され、平成19年、市政100周年の地区記念事業としてCDを作成し、歌は再び地域に広まりました。地域のサークル活動は自主的・主体的に運営され、特に「神林山雅の会」は山雅FCの応援を通して地域全体で親睦や活性化を図っています。神林は歌の内容のように郷土の平和と文化、環境や絆を大切にしたい心温かな風土です。



「神林の歌」の大合唱

大正時代には「白樺派」の影響を受けた若い教師、海野峻範・竹村誉司が児童たちと一緒に郷土愛と誇りを持たせようと、100年前の大正10年に作詞・作曲した「神林の歌」は、戦時中には忘れられていました。

「7区の繋り温かい」

が刻まれた碑が建てられ、功績を伝えていきます。また、地区出身の戦没者や満蒙開拓で亡くなった人を慰霊する平和祈念碑前では、毎年住民が式典を行っています。

松本平の野鳥たち

キジ (撮影: 2020.7.29 安曇野市)

昔から日本人となじみの深い野鳥。しかし、国鳥に選ばれながら狩猟が許されている不幸な面を持つ。山地から平地の林、農耕地、河川敷などの明るい草が好み。繁殖期のオスはなわばり意識と多くのメス確保のため、境界周辺でオスが出会うと激しく争う。松本平では年間を通じて見ることができる。留鳥。

まつもと散歩

残暑の中で出会った、ほほえましいヒトコマ。まぶしい笑顔は、いとおしく大切なもの。今日はいいお天気で良かったね!

(撮影: 2021.8.28 松本駅前)